福島復興のシンボルとして緑のピッチに笑顔を

上田（うえだ） 栄治（えいじ）

株式会社Ｊヴィレッジ 代表取締役 副社長

昭和28年（1953）、千葉県館山市生まれ。
1999年よりベルマーレ平塚監督。同年12月マカオ代表監督。2002年から
日本女子代表監督に就任し、2004年アテネオリンピック出場。2006年より
日本サッカー協会理事、女子委員長を務める。2013年よりＪヴィレッジ副社長。

「ここでまたサッカーができる日がくるのだろうか」。
原発事故の対応拠点となったサッカーの聖地は、天然芝のピッチに
砂利が敷かれて駐車場になり、スタジアムのところに建っていたのは仮設宿舎。
震災後に初めて訪れたときはとてもショックでした。
震災前は、よくキャンプで利用していたＪヴィレッジ。ピッチがとても良く、
宿泊施設が整っていて使いやすく、気に入っていたんです。2013年9月に
オリンピックの東京開催が決まり、そこを目標にＪヴィレッジを再開させよう
という計画が始動。私もプロジェクトチームの一員として開業の準備を進め、
灰色だったピッチに緑が戻っていく様子にとても感動を覚えました。
一方で「本当にＪヴィレッジに行って大丈夫なのか」という声もあり、
風評の根深さを感じながらの準備作業でした。
2018年7月28日午後2時46分、スタジアムでゲーム開始のホイッスルが鳴り響き、
あの時から止まっていた時計が再び動き始めました。
Ｊヴィレッジは今、サッカーの聖地であるとともに福島復興のシンボルという
役割も担っています。スポーツに限らず、老若男女が訪れ、多くの人が楽しめる
場所となるよう、これからも発信を続けていきます。

2019年4月20日、グランドオープンを迎えた
Ｊヴィレッジに笑顔があふれた